

ようせい
大学体育養生学研究会

第16号



事務局：東京女子大学文理学部・横沢研究室内

FAX・03-3396-9996（問い合わせ受付）

- ▷ 巻頭言
- ▷ 2002年度総会・ほうこく
- ▷ 「清水 司会長」続投
- ▷ 図書刊行ニュース
- ▷ 第3回研究発表会・ほうこく
- ▷ コラム「養生学」

本会のモットーは「共生原理」

第一期は無事に務めました

— 次のステップは学術団体への登録です —

ようせい
大学体育養生学研究会

理事長 横 沢 喜久子

本会は1999年7月17日の「設立総会」をもって、清水司会長のもとに、正式に発足いたしました。本会の設立に向けて「発起人会」の立ち上がったのが1999年4月。同4月3日には「設立準備委員会」を開催いたしました。同時に当日は「第7回海外研修会・中国養生法研修会」の開催要項も決定しました。「第7回」という表示には意味があります。本会の多くの関係者は、それまで、社団法人全国大学体育連合における「中国養生法研修会」の企画運営に携わってこられました。本会のひとつの「流れ」はその大学体育連合時代における授業開発研究を踏襲していることとなります。そのため1999年4月5日付で同連合へ「研究会設立計画書」並びに「支援要望書」を提出して正式に認知していただく手続きを完了しています。

爾来、本会は、会則に定める本会の所期の目的をまっとうするために下記にわたる事業を無事にまた成功裡に遂行してまいりました。

- ① 「研究会」結成式…1999年7月17日
- ② 第7回中国養生法研修会・於「上海体育学院」…1999年9月1日～同11日
- ③ 第3回東洋養生法研修会・シンポジウムの

開催…2000年3月11日（注：「第3回」表記は大学体育連合時代の「国内研修会」を踏襲したため。なお、本研修会は「養生フォーラム1999」と命名し、以降の研修会は「養成フォーラム」として開催。）

- ④ 第4回東洋養生法公開研修会「養生フォーラム2000」の開催…2000年7月21日～25日・於「大阪府労働センター」「関西大学セミナーハウス高岳館」（注：「公開講演会」は財団法人大阪府レクリエーション協会との共催で「ねんりんピック2000大阪」協賛事業として「日中共同健康フォーラム」を開催。）
- ⑤ 第1回「研究会」（学会形式研究発表会）の開催…2001年3月10日・於「東京女子大学」
- ⑥ 第8回中国養生法研修会・於「上海体育学院」・大学体育連合共催…2001年3月20日～同24日
- ⑦ 「養生フォーラム2001」の開催・人体科学会第11回大会へ協賛参画・於「関西大学」「吹田市民文化会館」…2001年11月23日～同24日
- ⑧ 第2回「研究会」の開催・於「東京大学駒場校舎」…2002年3月10日

- ⑨ 「養生フォーラム2002」の開催・於「東京大学駒場キャンパス」…2002年3月9日～同10日（注：大学体育連合関東支部と共催）
- ⑩ 第9回中国養生法海外研修会開催・於「上海体育学院」…2002年9月3日～同8日
- ⑪ 2002年度「研究会」の開催・於「明治学院大学」…2003年3月8日～同9日
- ⑫ 『大学体育養生学研究』（第1巻1号～第3巻5号）・通算5号を発行。
- ⑬ 『研修ノート』（1号～4号）・通算4号を発行
- ⑭ 大学体育養生学研究会編図書『からだの原点：21世紀〔養生学〕事始め』を刊行（2003年4月10日刊行予定）

このように、本会は、精力的な活動を続けています。それもひとえに、清水司会長・鎌田章副会長・田中朱美副会長のリーダーシップのもとに、第一期の役員を務めていただいた諸氏のご尽力の賜物です。あらためて御礼を申し上げます。本会は2003年3月末日をもって第一期の任期を終了することになりますが、第二期目には「学術団体登録」を旗印にさらに躍進をつづけたいと願うばかりです。

2003年状況の世界は、まさに、本会のモットーとする「共生原理」へのパラダイムシフトへの真っ只中にあります。食生活も20世紀の「ファースト・フード」時代から21世紀型「スロー・フード」時代へと転換しつつあります。「からだの原点」「生の原点」を見直すというわれわれの視点は刻々と認められつつあります。いま進行中の大学改革は、ともすればバブル経済後遺症という競争原理・経済原理に後押しされて、時代遅れのリストラ発想のもとに進んでいるようです。ここは、本会から発信して、いまこそ「本物は何か」を見極めながら、共生原理発想のあらゆる改革を押し進めて、舵取りに錯誤のないように働きかけたいものです。それでは本会の第二期の躍進に期待しながら、第一期にご鞭撻いただいたすべての方々に感謝申し上げます。

最後になりましたが、第一期本会執行部の役員の方々のご氏名を掲載させていただいて、その間の献身的なご尽力に対して敬意を表しておきたいと存じます。

常任理事 跡見順子（東京大学大学院教授）

常任理事 遠藤卓郎（筑波大学教授）

常任理事 久保隆彦（明治学院大学教授）
 常任理事 谷 祝子（神戸女学院大学教授）
 常任理事 張 勇（長野県短期大学助教授）
 常任理事 伴 義孝（関西大学教授）
 常任理事 宮本知次（中央大学教授）

2002年度総会

— ほうこく —

2003年3月8日16:30～17:30

役員改選

清水 司会長 再選

本会の第一期のめざましい活動をより発展させるために、清水 司会長へ、引き続きご尽力いただきたい旨の常任理事会決議を総会で満場一致で議決。選挙管理委員会が、清水 司先生に、その旨をお伝えしましたところ、快くお引き受けいただきました。

事業案・予算案可決

第二期目は「学術団体」登録に向けての活動が本会活動の柱になっています。2003年度「事業案」「予算案」はその大目的に照準を合わせて計画・編成されています。

役員構成は常任理事会で

第一期の執行部全員も留任が決定。第二期の「役員構成」は常任理事会でその構想を練って、しかるべき手続きをとって、決定する旨が可決された。なおその際第二期の執行部体制原案を常任理事会で検討し、しかるべき手続き後に決定することになった。

ニュースレター：ようせい

巻頭言

第1号～第15号

- ▷ 第1号「発起人会の設置」…編集部
- ▷ 第2号「《蓄積》が無かったならば」…横沢喜久子：東京女子大学教授
- ▷ 第3号「にいはお・フロム・上海」…畠 継英：上海体育学院学長
- ▷ 第4号「一言ご挨拶を」…清水 司（東京家政大学学長）
- ▷ 第5号「技の心」…湯浅泰雄：桜美林大学名誉教授
- ▷ 第6号「二十一世紀は心が問われる時代」…田中朱美：東京女子医科大学精神医学教室主任教授
- ▷ 第7号「自然の恩恵を受けて生かされている」…鎌田 章：神奈川大学教授
- ▷ 第8号「《せい》と《しん》・大学体育の意義」…片岡暁夫：国土館大学大学院教授
- ▷ 第9号「遊びとしてのスポーツの研究を」…春木 豊：早稲田大学教授
- ▷ 第10号「そもそも、養生、養生学とは何だろうか？」…小木曾 友：アジア学生文化協会理事長
- ▷ 第11号「《恬淡虚無》もまた健康法」…吉元昭治：吉元医院院長
- ▷ 第12号「生涯スポーツのメダリスト」…東京YMCA体育専門学校校長
- ▷ 第13号「仲間としてともに弾んでみよう」…片倉道夫：大阪府レクリエーション協会専務理事
- ▷ 第14号「《研究会》への期待」…伊藤順蔵：早稲田大学名誉教授
- ▷ 第15号「新しい動きに期待する」…南 隆明：ホテルグランヴィア大阪代表取締役社長

会員募集

本会は「からだの原点」「生の原点」をコンセプトに活動する21世紀型研究会です。

図書刊行ニュース

からだの原点

～21世紀（養生学）事始め～

大学体育養生学研究会編

本会事業「図書刊行」近々なる!!

— 2003年4月10日発行 —

序 今日のからだの思想 湯浅泰雄

「主体的身体と客観的身体」について「身体には一人称と三人称の両面がある」こと、ほかを説く。

1 生きる力を育む21世紀養生考 横沢喜久子
伝統的養生思想の知見をとおして身体技法と科学の融合を図ること、ほかを説く。

2 「生きる力」とはなにか 伴 義孝
その本質を改めて問いながら「モノ化し操作される身体」の克服に向けて、危機の時代状況を説く。

3 からだの自然 養老孟司
多くの人が、なにかの「おかしいさ」に気づいている。しかしそれを思想化できないでいると説く。

4 からだの中の40億年 跡見順子
運動が生む「ところ」と意志が支えるからだの「理」を基底に人間の生物学と「身」の「理」を説く。

5 貝原益軒『養生訓』に学ぶ 立川昭二
「心は楽しむべし、身は労すべし」を哲学とし「身と心」のかかわりから現代の「養生訓」を説く。

6 東洋という視座 張 勇
4000年間の伝統的中国養生思想に学びながら「養生」の本質の視点から21世紀の養生法を説く。

7 精神科医の立場から 田中朱美

東洋医学に強く惹かれるのは自然を中心に据えた人間観があるから。現代医学との融合を説く。

8 授業から「からだ」を考える 遠藤卓郎

気功の授業の経験と観察をとおして、大学体育における意味を「生の技法」として捉えよ、と説く。

A 5 版・180ページ・本体2000円・市村出版

大学体育養生学研究会編

からだの原点

～21世紀〔養生学〕事始め～

は

大学で「からだの原点」「生の原点」
を考える「教科書」として最適です。

※ 一括して本会へ購入を申し込めば「20%
著者割引」を適用できます。ご利用ください。

第3回研究発表会

— ほうこく —

2002年度第3回研究発表会は2003年3月8（土）～9日（日）の両日に明治学院大学で、開催されました。第一日目の一般研究発表（学術）部門（8日）では、5題の発表があり、なかでも吉元昭治先生（吉元医院院長）の「仙人のルーツについて」という本会ならではのユニークな演題もありました。さらに、「実践報告」（8日）では、太田正和先生（岡山理科大学教授）の「上海・チベット養生法研修報告」がありました。同報告は『大学体育養生学研究』（第6号）へ収録されます。第二日目（9日）には「実践研究発表部門」を開催して4題の発表がありました。同9日午後には常津良一先生（常津三敬病院名誉院長）の本会の指針となる講演「外科医として感じた西洋医学の限界と新しい可能性」がありました。

ようせい
コラム「養生学」

一人称の観点から見た主体的身体の考え方は、心身関係を考える上で重要なポイントですが、ここにはもうひとつ大事な問題があります。メルローポンティらは身体のメカニズムを感覚—運動回路としてとらえています。これは外部からの感覚刺激を受け取って脳（新皮質）に伝える感覚神経と、脳から運動神経によって指令が手足に伝えられる過程を情報の回路としてとらえる見方です。つまり、脳が人体に対する情報の入力と出力のセンターの役割を果たしているというわけです。しかし身体には、こういう感覚—運動回路だけでなく、自律神経が支配している内臓系の機能がそなわっています。メルローポンティら西洋の哲学者はこの問題を無視しています。その点、東洋の身体論は瞑想法、医術、武術などを総合的にとらえる観点に立っているのです。ここには西洋の伝統にはない長所があると思います。先にも言ったように、自律神経の作用は情動や無意識のはたらきと関連が深く、意識と脳が支配する心身の表層部分に対して、その低層部分を形づくっています。（湯浅泰雄原稿「今日のからだの思想」より・『からだの原点：21世紀〔養生学〕事始め』収録・市村出版・2003年4月10日出版予定・傍点引用者）

年会費のお振り込みと!! 下記へ

みずほ銀行西荻窪支店・普通2118044
大学体育養生学研究会・横沢喜久子

ようせい
大学体育養生学研究会事務局

☎167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1
東京女子大学文理学部・横沢研究室内
FAX 03-3396-9996